



四つの銅像

太田龍東

ある夜のこと、上野の公園にある西郷隆盛の銅像が、二重橋の外にある楠正成の銅像の所に往って、

『もし楠さん、私等は恚うやって、夜も晝も一所ばかりに居ては、退屈で仕方がないから、人の見て居ない間に昔話でも爲て遊ぼうではありませんか。』

と申しますと、楠の銅像はニコく笑ひながら、

『やあ、誰かと思つたら西郷さんですか。私も淋しくて困って居る所でした、御互に今夜は緩々と話ませう、不錯して大村益次郎さんも嘸退屈で困って居るに違ひないから、之れから、誘ひに往って三人で話さうではありませんか。』と答へました。那麽から一人は九段坂の上に参りまして、

『大村さん貴君も嘸御退屈だらうと思つて遊びに來ました。』と云ひますと、大村銅像は喜びまして。

『御親切に有りがたう、元より私も望む所ですから今夜は緩々遊びませう。しかし、全じ遊ぶなら、先日この隣りに見へた川上さんも誘って上げては什麼ですか。』

と云ひますから、それも宜からうと云ふので、川上大将の銅像を誘ひまして、四人は之れから連れ立って、上野の鶯亭に往つて遊ぶことに決めました。

皆が久し振りの遊びでありますから、怎爲遊ぶなら面白く遊ばうと云ふので、酒肴を注文して大散財を初めました。暫らくすると皆がお酒によって上

機嫌となり、踊つたり飛んだり大さはぎとなりました。西郷銅像は川上銅像に向つて、

『川上さん、貴君一寸詩吟を遣つて下さい、私は之れから劍舞を遣りますか。』と云ひますと、川上銅像は、『よろしい遣ります。』孤軍奮闘圍を破つて出づ』と、

大きな聲で詩吟を遣りますと、西郷銅像は劍を抜いて劍舞を初めました。皆は面白がつて「妙々」と云て手を拍つて賞めます。次ぎには、大村銅像が徳利の尻を箸でたゝいて、

『建武の昔正成は、肌はだの守まもりを取り出いだし、これは一年ねん都みやこせめ。』

と歌を謠うたひますと、楠銅像くすのまどうぎやうは、頭まに皿さらを被かぶてコリヤくと拍子ひやしを取とつて踊まわり廻まわります、其滑稽そのこつげいな体裁ていさいを見ると、之これが天下てんかの大英雄だいえいゆうの寄より合あかと思おもはれる程ほどであります。

ところが、上野交番所うののこうばんじよの巡查じゆんさが西郷銅像さいきやうどうざうのある所迄ところま巡廻じゆんかいして來きますと、西郷銅像さいきやうどうざうの銅像どうざうが居いないで只ただ犬いぬばかり居いりますから、之これは大變たいへんだとすぐ警察署けいさつしよに知らせました。すると、二重橋にじゆうばしの交番こうばんからは楠銅像くすのまどうざうが居いないと知しらせて來きま

した。

又九段またくだんの交番こうばんからも川上かはかみと大村おほむらの銅像どうざうが居いないと知しらせて來きました。さあ恚いかうなると東京市中とうきやうしちゆうは大騒おほさわぎで、各警かくけい察署さつしよでは、四大銅像だいどうざうが夜逃よにげをしたと云いふので、巡查じゆんさは總掛そうがけりで探さがしてゐます。

暫時しばしばすると、大銅像だいどうざうが、上野うへのの鶯亭うぐい亭で散財さんさいを遣やつてゐると云いふ事ことが解わかりました。それで巡查じゆんさが鶯亭うぐい亭の石礎いしだんの所ところまで往いつて見みますと、大騒おほさわぎを爲してゐる音がしますから、急いそいで内うちに飛とんで這は入いりますと、四人にんの銅像どうざうは巡查じゆんさを見て喫驚くつきやうして、捕つかまつては大變たいへんと周章あはてして逃にげ出だ

しました。

逃げ出したのは好かつたが、餘り狼狽たものですから、自己の歸る所を間違へて、楠の銅像は上野の西郷銅像の台石へ登つて、犬を馬だと思つて帖然と乗つた。乗つて見ると何んだか變だ。變だが關はないで知らぬ顔して濟し切つてゐます。乗り人は那麼でよからうが、乗られた犬は堪つたものではありません。んキヤン／＼鳴いてゐます。不錯任麼する間に西郷銅像は一と息に成つて飛んで歸つて見ると、この有様、

『やあ、楠君君は吾輩の居所を占領す

るとは随分だね。見給え犬は死んで終ふよ、可愛さうに。』と

云はれて初めて氣が附いて、

『やあ失敬ッ。』

と云つて、急いで二重橋指して駈けて歸りました。

又大村銅像も狼狽へて、川上大將の台石へ上つて漸やく自分の所へ歸り着いたと云ふ顔付で較安心して、ポット一と息してゐますと、川上銅像が額から汗を流して飛んで遣て來まして、

『をやッ、大村君、間違るにも程があるではないか、之れは僕の所だよ、未だ君

は酒の酔が醒めないと見えるな。」

と云ひますと、大村銅像は少しくきま

り悪く、

「何ッ、酒の酔は醒め過ぎたが、餘り急

いだものだからこゝで一休みしてゐ

る所さ。」

などと負惜み口上を後に残して歸つて

往きました。之れで四銅像は各自分の

座に着きましたと云い。

(完)



師の恩

(幼稚園卒業の歌)

此歌は女子高等師範附屬幼稚園にて一の組に近頃教授しつゝあるものなり

(1)	1 1 2 2	3 3 2 2	3 5 5. 3	2. — 0
	チイサキ	アレラニ	ヨキコト	チ
(2)	まいにち	われらを	あいしつ	い
	3 — 2 2	1 1 2 2	5 3 3. 2	1. — 0
	チシヘ	タマヒシ	シノメグ	ミ
	そだて	たまひし	しのなさ	け
	2 — 3 2	5. 6 5 0	3 2 3. 6	5. — 0
	ナガク	トホク	ワスルマ	ジ
	おやの	ごとく	あさゆふ	に
	6 6 1 6	5 — 5 3	2 2 3 2	1. — 0
	オホキク	ナリテ	ノチマデ	モ
	したひて	あふがん		